

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく
目指す学校像	自ら考え正しく判断する児童が集う学校 やさしさと思いやりのある児童が集う学校 健康でたくましい児童が集う学校
重点目標	1 確かな学力を持つ児童の育成 2 豊かな心を持つ児童の育成 3 地域と連携した教育の推進 4 リフレッシュ工事とともに進める、美しい教育環境の整備 5 自己研鑽に努める教職員チーム

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均を上回った。国語の表現力は引き続き本校の課題である。 ○真面目に授業に取り組む児童が多く見られ、学びへの関心も高い。一方で集団での学習に難しさをかかえ、個別最適な支援が有効と考えられる児童も各学級に在籍している。 ○無回答率は、ここ数年で低くなった。 (課題) ○個別最適化した学習展開を日常的に進める事と、Sola む等による個に応じた学びの場の提供。	・個別最適化を目指した授業改善 ・本校の実態に適した Sola む等による個別な学びの場の創出	・「データ活用能力の育成」「プレゼンテーション力の育成」のために、タブレットを活用した個別最適化された学習の頻度を高める。 ・個別学習により学習効果を期待できる児童に対し、ICTを活用した有効な学びを提示する。 ・校内の空き教室を転用した Sola む専用室を開設する。 ・Sola む等利用児童の学びの計画を作成し、個に応じた支援を実施する。	・全国調査の結果をもとに児童が自己の弱点を意識した学習感想が書けたか。 ・タブレットの汎用アプリを活用し、児童が情報収集能力を高め、各自の課題を解決する個別最適な学びができたか。(リーディングDXスクール) ・本校独自の Sola む環境を整備し、個に応じた支援計画ができたか。			
2	(現状) ○「笑顔であいさつ」は豊かな心育成の第一歩として、全校で取り組んでいる。中学校との合同あいさつ運動も実施している。 ○本校の欠席15日以上の児童は30名前後を推移している。不登校傾向や発達に特性がある児童は、よりよい学びのために担任だけでなくSC、SSWとの面談や学校外のサポート機関との連携も進めている。 (課題) ○時と場にあわせたあいさつができるように指導する。 ○近年、児童の不調の原因が特定できないケースが増えている。家庭や地域との協力、関係諸機関との更なる連携に努め、組織的に支援する必要がある。	・挨拶ができることのよさに気づき、校外でも挨拶のできるような児童を育成する取組。 ・児童の心の不調にいち早く気づき、関係諸機関とも連携しながら支援する方策が取れる。	・管理職や教員があいさつを励行する中で、TPOに合わせた挨拶ができる児童を育成する。 ・小中連携の「あいさつ」に関するキャンペーンを継続する。 ・スクールダッシュボードを児童理解の参考データとし、より一層の児童理解に努める。 ・SCやSSWと連携し、児童に対する支援は全教職員でチームとして行う。 ・関係諸機関にも支援協力を要請する。	・児童会を中心に、本校の課題である「学校外でのあいさつ」を励行し、登下校の安全確認や外部の方との関係構築も含め「あいさつ」が出来たか。 ・学校評価のアンケートであいさつに関わる項目で85%超の肯定的回答を得られたか。 ・「児童」「保護者」「教職員」アンケートで、教育相談に関する項目の肯定的評価が前年度比10%のプラス。 ・関係諸機関との連携が必要に応じ、スムーズになされたか。			
3	(現状) ○学校運営協議会は実施4年目、熟考を経てコミスクとしてのスローガンを作成した。 ○管理職、地域コーディネーターが中心となり、学校の広報活動に力を入れている。 ○登下校の見守りは、保護者、ボランティアの方々等の協力が充実している地域である。 (課題) ○保護者、地域のボランティアが減少傾向にあること。 ○「スローガン」の周知の具体的方策を定め、地域、保護者に共有すること。	・学校、保護者、地域が一体となって児童の育成に取り組むための指針をコミスクで共有化する。 ・地域とともにある学校としての情報発信を確実にこなう。	・学校運営協議会を計画通りに開催し、目指す児童像やスローガンについて引き続き熟議を行う。結果は学校HPや学校だよりで発信する。 ・作成したスローガンや承認されたブランドデザインを基に、行事の計画や具体的方策を定める。 ・学校HPの更新もよりよりリアルタイムな情報発信に心がける。 ・ブログの年間アクセス数を昨年度より50%増を達成する。	・年3回の学校運営協議会が計画通り開催され、その内容をHP等で広報できたか。 ・地域に向けた広報活動を年3回実施できたか。 ・学校HPのブログを平均週1回更新する。 ・ブログの年間アクセス増数10000以上を達成する。			
4	(現状) ○令和8年度完成を目指したリフレッシュ工事期間中であり、校庭利用制限、増築に伴う騒音・振動が常にある。 ○クラスルームはリフォームされ、空調も含め快適な学習環境になった。 ○わずかな学校園しかなく、花と緑が少ない。 (課題) ○工事を含めた施設設備の安全点検を教職員が徹底するとともに、児童にも危機回避能力をつける指導することが引き続き求められる。 ○限られた環境を生かす工夫が必要となる。	・リフレッシュ工事に伴い日々変わる教育環境を踏まえた安全・安心な教育活動の推進 ・限られた環境で花や緑のある教育環境を創出する。	・安全に学習が進むようにルールが徹底を図るとともに、教職員の安全指導の工夫により、自ら危機管理のできる児童を育成する。 ・学校地域連携コーディネーターや管理職が地域諸団体や工事業者と良好な関係を持ち、児童の教育活動に資する。 ・教材園の計画的な活用をする。 ・プランターを活用した通路のグリーンカーテン活動を環境委員会や有志児童で行う。	・学校自己評価において、安全に関連する教職員のアンケート結果が、90%以上肯定的になったか。 ・登下校指導や地域の安全に関する活動に、職員が少なくとも年間1度は参加し、協働できたか。 ・1年から3年生における一人一鉢栽培の場所を確保する。 ・緑化ボランティアの立ち上げ。			
5	(現状) ○本校は児童の指導に熱心な教職員が集い、若手からベテランまで共働で教育にあたっている。 ○子育て期にある教職員が多い。 (課題) ○教職員がそのキャリアに合わせ研修を積み、児童の指導にフィードバックできる時間の保証。 ○校内研修を有効に活用した教師力の一層の向上。 ○日々、心も体も健康で勤務できる職場環境を引き続き作っていく。	・リーディングDXの文科省指定研修を確実に行う。 ・自主的な研修の機会を設定し、交代で指導者となる事で教師力の向上と継承を図る。	・DXに関する授業を全教職員が1実践行い、指導力を高める。 ・全教職員が、市内外への視察を行い、共有できるように報告する。 ・OJB(大戸自主勉強会)を月に1度開催し、幅広い知識のインプットや、アウトプットをおこなう。	・全教職員がDXによる授業に取り組む事で「学習指導」の項目で教職員自身が成長したという自己評価が、記述内容に表れたか。 ・ICT機器の授業での利用頻度について昨年度比50%増を達成したか。 ・自主的な研鑽の報告を、年1回全教職員が行えたか。			

学校運営協議会による評価
 実施日令和 年 月 日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等